

まなびの広場  
稲進会  
教室通信

## 彩色いろいろ

## 『過去は変えられない???』

よく「過去は変えられない」と言われます。「変えられるのは未来だけである」と。

でも、私の考えはちょっと違って補足が必要かなと思っています。

「過去の『事実そのもの』は変えられない」であって「過去の『事実の解釈』は変えられる」が正しいのではないのでしょうか？

例えば、A君の算数のテストの結果が40点でした。その事実は時間が経過しても永久に変わることはないでしょう。ですが、40点の解釈はいくらでも変えられます。テストを受け取った瞬間は、「あ〜ダメだった。俺って（私って）算数苦手だ」としか思えなかったとしても、よくよく答案を見てみると、単位をつけていなかったために30点減点、計算ミスで10点減点だったことがわかりました。すると「80点とれるはずだった！頑張れば算数いけるかも？」に解釈は変わります。また別の単元を勉強している際につまずいていた箇所の理解が出来、あの40点もそれが原因だったのかと判明してあまり気にすることじゃなかったんだと捉え方が変わってきたりもします。

一つの事実から作り上げられた認識は実は勝手な思い込みによるものなのです。

過去の事実の解釈を変えるために、一つ大切な姿勢があります。それは違う側面から事実を捉えてみることです。しかも未来につながるという視点で。A君の例でもA君が40点の答案を受け取ったまま何もしなかったら、ダメだったという気持ちは変わることはありません。よくよく見るという行動を通して別な視点が見えてきたのです。また、次の学習を行っていたからこそ自分の不十分な箇所が判明しました。一つのテスト結果が特に悪い面が出ている場合に、それをそのまま受け止めシャットダウンしてしまえばそれで終わりです。ですが、そこに意味を見出そうとする姿勢、あきらめず続けて取り組み向上しようとする姿勢は新しい価値観に出会わせてくれます。

先日、日本の教育において絶対的に不足しているのは、『仮説を立てる力』という話を聞きました。

センター試験に代表されるマーク型（正答選択型）の試験では、もともと正答が用意されていて、いかにそれにたどり着けるかが試されます。こうした試験では事前に正答が存在するわけです。

仮説を立てることは、正答にたどり着けるかもしれないしそうでないかもしれない、というスタート地点における状態が真逆とも言えます。

実生活はどうでしょう？日々出会う問題の多くは（全て！の気が）正答なんて用意されていません。自分自身で探すしかないのです。

何か一つの事実と向き合う時、特に表面上良くない結果になってしまった時、そのことばかりにとらわれていては新たな視点の発見も仮説を立てる力の成長にもつながりません。目を覆いたくなるような結果を手にしたとしてもそこに意味を見いだそうとする、あるいは太平洋のど真ん中にいたとしても、海水温や潮の流れ、天候状態…、あらゆる情報を分析し仮説を立て助かる道を探ろうとする、そうした力強さを身につけるといって視点こそ子どもを社会に送り出す前に必要な教育である気がしてなりません。

## 教室の風景

### 何かを伝えるということ

私が担当している子の中に「オレ、自分でできる」が合言葉の年少さんの子がいます。その子にとってそれは魔法の言葉。たとえ途中で壊れても、ちょっと難しくてもその言葉があれば背中を押されて頑張れるみたいです。聞くところによると、幼稚園に行くようになってから言動が男らしくなったのだとか。こんな風にプラスの言葉が呪文のように力を貸してくれたりするんですね。

また別の曜日の小2の男の子にとって「小さい子も喜ぶし」とか「みんなで遊べるし」などという第三者の存在がやる気にスイッチを入れるキーワードになるようで、そうするといつもの口ぶりとは違い優しい一面を垣間見ることができます。

言葉といえばうちの母のことになりますが、昨年末から短歌を習いはじめまして。指折り数えて作歌している姿を見てはじめのうちは可笑しく思っていた私も、いつの間にか少しずつハマりつつあたりして(^^;) 短歌といえどもっとお歳を召した方が嗜むものというイメージでしたが、これが意外とおもしろいんです。何かを強く訴えかけてくるその31音は、説得力のある言葉づかいがとても印象的です。

このことをレッスンでも生かして、その子にとって琴線に触れる言い回しができるように言葉の幅をもっと広げたいです。ちょうど最近は大和言葉が改めて注目を集め、色々な本も出版されているようですし。同じ意味合いの言葉でもちょっと言い方を変えるだけで味わいが変わります。まずはコミュニケーションを円滑にすると言われる柔らかくて穏やかな大和言葉をこの機会に見直してみたいと思っています。

インストラクター 清水倫子

## 2月作品紹介 ジュニアクラス作品発表会

